

2007年12月5日(水)・6日(木)・7日(金)
AM10:00～PM 6:00 (最終日はPM 5:00まで)

Press-Data : 出展者総数=280件／508小間

<企画・編集・発行> ファッション戦略会議 JFW ジャパン・クリエーション運営委員会
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-4-5 TEL.03-3661-7321 http://www.japancreation.com

JFW-JC News

12.5 [wed]

JFWの傘下で新たな一步

アジア最高峰の見本市を目指しトレンド発信

テーマは“JAPAN INFUSION”

アジア最高のテキスタイル展を目指す意欲を示すとともに、日本のモノ作りへの希望と飛躍を来場者へ感じていただくため、今回からトレンド・インデックスコーナーにコンセプトを設定しました。

今回のテーマは「JAPAN INFUSION」。

創造と破壊から生まれる美があるとすれば、日本のもの作りには、その両方の可能性を探るさらなる感性と技術があります。また、それを可能にする多くの優秀な人材がいます。そして、今までこの創造価値から生まれる表現が、何度もジャパン・ショックを引き起こしてきました。今、あらゆるデザインの分野で、「日本のもの作り」への注目が集まっています。

この追風にのって「JFW JAPAN CREATION 2008 Autumn/Winter」は、高感度な「ジャパン・クオリティ」を世界に発信し、質の高さを追求したファッション・ビジネスの場を創造いたします。

大きな樹となったJFW JAPAN CREATIONに「織維や素材を通して見る一歩先の未来」を予感させる蕾がついたのです。まだ小さな蕾ですが、クールで情熱的な花を咲かせることでしょう。関係者一同、来場された皆様で、この蕾の成長を見届けて欲しいと願っています。

◆ Dance watcher

人体の動きはシンプルな線に収束します。ダンスは最もプリミティブで最も高貴な精神の具現です。

身体の中からあふれる衝撃を即興的に表現。ダンスがもつポジティブなパワーをリズミカルで楽しげな素材で表現します。

◆ Metro-sexual

日々の暮らしを美しく心地良く価値あるものを高め、現代に生きるセクシーでパワフル。モード気分で装う新感覚のアーバンスタイル。あらゆる素材をうまく取り入れたユーチャーリスティックな素材。スポーツ、エステなどの機能素材。

エコを上手くファッションに取り入れてモダンでクリーンな感覚で表現します。

◆ Art-architectural Garden

自然の持つたくましさと機能を兼ね備えた天然織維と合織がミックスした新しい複合素材。エコ素材も重要です。

織維で力強いアート感覚や、植物的発想で自然と遊び自然が息づく新素材で表現します。



Tex-Promotion

Form Presentation

フォルム・プレゼンテーション By Tex-Promotion

学生たちがプリントの可能性にチャレンジ



【フォルム・プレゼンテーションのカテゴリー】

- ・テキスタイル部門
- ・アパレル・ブランディング部門
- ・コンセプチュアル・ファッション部門



●永森 達昌氏の談話

「学生たちが描くプリントは当初、バーチャルなイメージになりがちで、現場にいって初めて現実的なものになったようです。技術者から『これでは出来ない』と言われて白紙に戻るようなケースもありましたが、学生たちの受け止め方は柔軟で、きわめてポジティブでした。彼らは前向きに修正作業にとりかかり、ファブリックとプリントの関係性を広げるなど、順応性の高さを垣間見ることができました」

Schedule

本日の主なスケジュール

Designers Fashion Show
13:30～ PIGGY'S SPECIAL
15:00～ PIGGY'S SPECIAL

明日の主なスケジュール

Students Fashion Show
13:30～ PIGGY'S SPECIAL
15:00～ PIGGY'S SPECIAL

Forum

11:00～ 近藤健一氏「企業間コラボレーション“夢工房”」
14:00～ 時田麗子氏「世界から見た日本のテキスタイル」

キーパーソン・インタビュー

バイヤーのためのテキスタイル見本市に

新たにスタートした「JFWジャパン・クリエーション」は、

これまで以上にビジネス色を強めています。

その背景と今後の展望について三宅正彦委員長は、このように語っています。

——JFWとしては初めての「JC」となりますが、あらためて今回の特徴を伺うと、どのような点ですか。

ブルミール・ヴィジョンやミラノ・ウニカがそうであるように、テキスタイル見本市はバイヤーのために開かれるものであって、JCも商談の場にならなければなりません。今回の12月展では、そこに重点を置きました。すでに発表されているように、「バイヤーズ・セレクト・コーナー」を新設したのは、そのためです。

——商談の場となるためには、何が必要となりましたか。

話が少しさかのぼりますが、JFWでは以前から「東京コレクション」と並んでテキスタイル見本市の開催を考えていました。JCとは別のテキスタイル見本市を開き、日本を代表する匠(たくみ)の技術をもった素材を集積し、日本だけでなく、世界のバイヤーに来てもらう。いわゆる「創・匠・商」に立脚したイベントを構想していました。それがJCと合併することになり、「JFWジャパン・クリエーション」がリニューアルした、というのが一連の流れです。それ

だけに商談の場となる「バイヤーズ・セレクト・コーナー」には力を注ぎました。

——具体的には、どのような方法で実現させたのですか。

まずは大手アパレル企業の協力を得て、デザイナーやマーチャンダイザー、素材担当者などの要望を聞きました。どんな企業が展出すればいいのか希望を募ったわけです。そこでノミネートされた130社前後を参考にして、事務局が展出交渉を重ねました。私も幾つかの企業にお願いに回りましたが、なかには「JCに出なくとも商売ができる」と固辞するケースもありました。しかし、そんな企業も、私たちの考えに賛同していただくことができ、商談の核となるコーナーができた次第です。

——来年の4月開催の「JFW-JC」では、CBF(クリエーション・ビジネス・フォーラム)が併催されますから、さらに内容が改善されますね。

そうですね。CBFを視察して感じたことは、出展企業の多くが

三宅 正彦 氏

ファッション戦略会議

東京発 日本ファッション・ワーキング実行委員長



染色など加工メーカーとのコラボレーションによって匠の技術を進化させている点です。こうした取り組みをテキスタイル企業は広げてほしい。それによって日本の特徴を高めていくことが急務です。上海で開催された「インターテキスタイル上海展」は、予想以上の評判でしたから、これを上回る内容にしなければなりません。

——そうすると、いざなは国内メーカーだけでなく、海外のメーカーを含めての国際性が求められますね。

向こう1年ぐらいは国内中心となるでしょうが、再来年あたりからはアジアを含めて海外のメーカーとコンバーターが加わった見本市にしていく必要があります。訪れるバイヤーにしてみれば、世界中のテキスタイルを見たうえで買い付けたいわけですからね。いざなにしても、できるだけ早く日本版のブルミール・ヴィジョンになるよう、さらなる改革を続けていく必要があります。

企業紹介



循環プロジェクトでアフリカに井戸を採掘



大正紡「夢工房」 No.6区-56

「すべてがエコロジー対応」とい切る同社では、川上、川中、川下が団結した総合力によって、環境にやさしいモノづくりを進めています。オーガニックコットンをはじめ、ホワイトバイン(白松)や工場で廃棄される落綿を原料にしたレーヨンなど、環境配慮が同社のアイデンティティになっています。北米産のホワイトバインは生育が早いだけでなく、害虫がつきにくいため防虫剤が不要となります。

一方、オーガニックでは、NGOのハンガーフリー・ワールドへの協賛プロジェクトを発足させました。これは同社と日本綿布、エド・ウインが連携して推進するもので、その名称は「ウガンダ・プロジェクト」。来年3月にオープンするラフォーレ原宿で販売する商品の売上高の2%を同NGOに寄付するというものです。ウガンダでは水不足が深刻になっており、この寄付金で井戸を採掘する計画です。採掘費用は1本掘るのに日本円で50万円かかるが、これで1,000人が利用できます。同プロジェクトでは、初年度売上高10億円を計画しており、達成されると40本の井戸が採掘できます。

ピュアなオーガニックとフェアトレード

株バソコトレーディング/日本オーガニックコットン流通機構 No.A区-24



オーガニックコットンは、一般的の綿畠で使っている化学肥料や殺虫剤や除草剤などの農薬を使わず、有機肥料を用い、天敵の益虫を活用して害虫駆除を行うなど、昔ながらの栽培方法で育てたコットンです。オーガニックコットンは、世界的な認証機関によつて栽培・製造においてその適格性が証明される仕組みを持っていますが、生産量は世界で生産されるコットンの0.5%という希少なもので。日本オーガニックコットン流通機構(NOC)は、有機栽培綿の価値が正しく評価され、環境保全やフェアトレードの方策が理解され、製品が広く普及するよう活動しています。バソコは、認証オーガニック綿及び綿糸を直接輸入し、国内で製品化しています。加工工程ではNOCの安全規準に沿って仕上げています。(原料は、フェアトレードの認証もあり、貧困救済に貢献しています。)



フジテギラ株 No.E区-23

リバーシブルの高密度織物など

富士吉田産地を中心で織物・原糸を企画販売しています。千吉良グループとしてモノ作りにこだわり、全国の産地と連携して、原料から企画しているのが大きな特徴です。今回展では、織り編みでは表現できない商品を実現した特殊加工品、ボンディングしたようなリバーシブルの高密度織物、細番手を使った透け感のある商品をぜひご覧ください。08秋冬商談では現在、先染めのシルク混織物、先染めの高密度織物、光沢感のある織物が好評です。



中伝毛織株 No.E区-72

妥協のない尾州の匠の技

グループ内に糸染め工場から織り編み、染色整理加工の工場を持ち、一貫生産しています。このため、小ロット短納期対応から大ロットの生産まで、お客様のニーズに柔軟に対応できるのが特徴です。ブースでは、「視覚的にも触覚的にも妥協のない尾州の匠たちの技を堪能していただきたい」考え方。08秋冬商談では、クラシックエレガントに機能的でアクティブなイメージを加えた素材や、装飾的な先染め素材、エコを意識した獣毛混など脚元を浴びています。



株カゲヤマ No.A区-25

伊のメゾンも開発力を評価

世界中から入手した情報を基に、高付加価値の先染め織物を製造販売。大ヒットしたフィルム入り織物やフレンジなど、商品開発力には定評があります。イタリアのメンズからも高い評価を得ており、継続して輸出しています。中国・上海近郊でも生産していますが、狙いは国内では生産できない商品を、同社のソフトを活かして作ることにあります。今回展は、主力のカジュアル向に加え、ドレスシャツにも力を入れているのが特徴です。



株松井ビニット技研 No.C区-14

マルチカラーストライプのマフラー

他社が生産を避けるような手間のかかる編地のマフラー、帽子、靴下を主力に生産。マルチカラーストライプのマフラーが高い人気を博し、ニューヨーク近代美術館(MOMA)や国内の美術館などで販売されています。国内の販売店舗は美術館やコンラジショップなどのセレクトショップを合わせると40軒強に上ります。今回は新たに開発したシルクのマルチカラーマフラー、それとコーディネートできるデザイン手袋をぜひ、ご覧ください。



青野パイル株 No.C区-39

高密度・軽量・ソフトなハイゲージペロア

ペイロア・ペロアの専業メーカーで染色はすべて自社で生産加工しています。国内のペイロア・ペロア織機を網羅し、独自素材があることが強みです。08秋冬商談では、高密度・軽量・ソフトなハイゲージペロアが好評。また、「ホーリーポーク(写真)」を生産するには特殊な機械設備が必要ですが、同機械の国内占有率はほぼ半分で、同社の顔となっています。海外でも同社の製品の人気は高く、イタリアのテキスタイルメーカーが買付けに訪日するほどです。



第一織物株 No.E区-43

超軽量から重量感のあるものまで

合織を主力に、独特の風合いのある超高密度織物で定評があります。

今回展ではナイロン100%もしくはナイロン/ポリエステル混で、30g/m²と超軽量から300g/m²と重量感のあるものまで、幅広く提案します。

08秋冬商談では現在、欧州でシェイプメモリー・タイプの商品群が好評です。

jc(ジェシー)のちょっとイツ服 2007.12.05.発

美味しい東京駅

新しい東京駅にはもう行きましたか? 八重洲の中央口と丸の内中央口を結ぶ駅の地下構内にできたGranStaは、10月25日にオープンしたばかり。ケーキやチョコレート、和菓子といったスイーツや、デリ、日本酒、レストランなど47のショップがお目見えしました。ベーグルやおむすび、お寿司などのテイクアウトも豊富ですが、中でも東京駅でしか買えない東京もちろん(¥900 駅弁屋 極きわみ)はちょっと変わっていてお薦めですよ。

